

米国 : SunEdison 社、新しい金融手段 (YieldCo) による ファイナンス計画を発表¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

太陽電池セルの大手メーカーで、また、世界中に太陽光発電事業を展開する米国の SunEdison 社は、年初よりイルドコ (YieldCo) という革新的な金融手段によって同社の事業資金を獲得する計画を立て準備を進めている。太陽光発電の更なる発展のためには太陽光技術の発展、太陽光パネルコストの低減のみならず、太陽光発電事業資金調達手段の革新も重要な鍵を握っている。

SunEdison 社の計画は子会社 (TerraForm Power 社) を設立して、米国、カナダ、英国、チリに保有する発電容量総計 524MW の資産をそこに移し、この会社を新規株式上場することによって幅広い一般投資家から新規事業資金を調達することを狙いとしている。

SunEdison 社本体の配当は太陽電池セル事業の景気の波の影響を受け変動するが、TerraForm Power 社は長期売電契約から生まれる収入を基に、株主に対して長期に亘って安定した利回り (yield) を提供することができる。このためこのような形態の会社は YieldCo と呼ばれる。

YieldCo は事業資金の調達を計画する事業者にとっては、従来の資金調達手段よりも調達コストが低いというメリットがあり、一方、利回りは小さくなくても安定した利回りを望む投資家にとっては恰好の投資先となる。また、YieldCo の株は株式市場でいつでも売却することができ、資金流動性が高い投資対象であるという利点もある。

米国の太陽光発電は今後も成長が続くと見込まれ、今までよりもはるかに多くの投資が必要となっている。これまでの米国の太陽光発電プロジェクトへの資金供給は主に、エネルギー関連企業、銀行、および連邦政府によって担われてきたが、今後幅広い層の投資家の参加が必要であり、様々な新しい金融手段が模索されてきた。

YieldCoは比較的新しい金融手段で²、2013年に米国の発電事業者NRG社は天然ガス火力、太陽光、風力発電所(総計15の発電資産、発電容量は1.3GW)の資産を移転してYieldCo

¹本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業(海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

を設立し注目された。SunEdison社の同業ライバル会社である米SunPower社も現在YieldCoによるファイナンスを計画している。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

² 2011年にカナダの Brookfield 社が、自社が所有する約 4.5GW の主に水力発電資産からなるファンドをトロント証券市場に上場したのが初期の事例と言われている。